

鳥獣保護管理捕獲コーディネーター

姜 兆文

対象鳥獣
二ホンジカ

活動地域
神奈川県

株式会社野生動物保護管理事務所

《東京都第001号認定鳥獣捕獲等事業者》

事業内容

二ホンジカ行動特性調査

事業の背景

神奈川県では、二ホンジカの特定鳥獣管理計画を策定しており、二ホンジカの適正な個体群管理の目標達成に向けて、捕獲の強化が必要とされていた。効率的に二ホンジカの捕獲を行うためには、行動特性をより深く理解し、地域の土地利用の規制状況やアクセスの難易度等も踏まえながら捕獲の方針の見直しを行うことが必要である。

依頼を受けて実施した内容

本調査では、神奈川県丹沢山地域における二ホンジカの生体獲、GPS首輪の装着、行動追跡を通じて上記のことを検討した。取得された測位データを用いて、移動の季節性と経路、全追跡期間、季節ごとの行動圏とコアエリア及びその年次変化を解析した。首輪を装着した62個体は定住型、季節移動型、分散型、一時長距離移動型という4つの移動パターンに分類された。調査個体の約8割は定住型、約2割は季節移動型、分散型は1割未満であった。定住型個体が利用したコアエリアは約0.2km²の狭い面積であることが明らかになった。季節移動型では、夏から秋には標高の低い地域、冬季には標高の高い稜線等を利用する冬高夏低の季節移動パターンを持つ個体が複数確認されるなど、越冬地と夏の生息地、移動経路なども明らかになった。これは暖冬によって標高の高い地域の積雪が少なくなったことと、これまで二ホンジカの密度が低かったことにより低標高よりもササなどの食物資源が豊富であることから、冬季に二ホンジカが利用するようになったと考えられる。

ニホンジカの行動特性調査の結果を踏まえて、特に冬季に標高の高い地域を利用する個体の増加に合わせ、高標高地域に生育する脆弱な植生に対して早急に適切な対策を講じることが必要と考えられ、管理計画策定検討委員会において提言を行った。



写真1 GPS首輪を装着後放獣したシカ

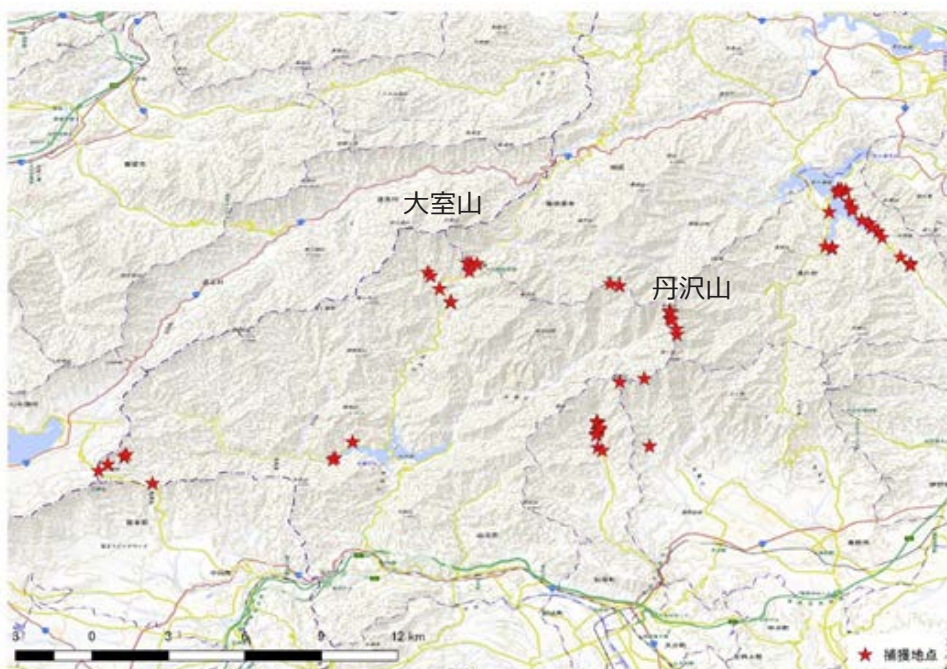


図1 丹沢山地での首輪装着するためのシカ捕獲位置
(国土地理院地図を加工して作成)